☆主の昇天（5月21日）の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（使徒言行録 1 章 1-11 節）

　テオフィロさま、わたしは先に第一巻を著して、 イエスが行い、また教え始めてから、 お選びになった使徒たちに聖霊を通して指図を与え、 天に上げられた日までのすべてのことについて書き記しました。イエスは苦難を受けた後、 御自分が生きていることを、数多くの証拠をもって使徒たちに示し、 四十日にわたって彼らに現れ、神の国について話された。 そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。「エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、 父の約束されたものを待ちなさい。 ヨハネは水で洗礼を授けたが、 あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである。」

　さて、使徒たちは集まって、「主よ、イスラエルのために国を建て直してくださるのは、 この時ですか」と尋ねた。 イエスは言われた。「父が御自分の権威をもってお定めになった時や時期は、 あなたがたの知るところではない。 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。 そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、 また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」こう話し終わると、イエスは彼らが見ているうちに天に上げられたが、 雲に覆われて彼らの目から見えなくなった。 イエスが離れ去って行かれるとき、 彼らは天を見つめていた。 すると、白い服を着た二人の人がそばに立って、 言った。「ガリラヤの人たち、なぜ天を見上げて立っているのか。 あなたがたから離れて天に上げられたイエスは、 天に行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになる。」

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 1 章 17-23 節）

　皆さん、どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望

が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

福音朗読（マタイによる福音 28 章 16-20 節）

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

ご昇天の祭日、皆様おめでとうございます。主イエス・キリストが天に昇っていく姿を見ながら思います。私たちもそのようにして天に昇っていくのだと。五月の青空を見上げながら私たちは天の国、私たちの故郷を思い浮かべます。神さまの心にあった私たちの存在はその天の国において永遠に続くものとなるのです。イエスは言われます。「父のもとに上り、あなたがたのために場所を準備しに行く」と。いわば天の国の宴席に私たちは招待されているのです。身も心も整えるようにいたしましょう。足元の自然界では神さまの傑作である草花が競い合って咲いています。その植物特有の花をしっかりと咲かせるのです。私たちも自分の花をしっかりと咲かせましょう。

第一朗読　（使徒言行録 1 章 1-11 節）

使徒言行録の冒頭の部分が読まれます。そこには主イエスが復活された後の弟子たちの行動が記されています。主イエスは復活の後、御父の元に戻られるご昇天までの四十日にわたって弟子たちの教育を行われています。目に見えて、また触れるものに左右されやすい人間の弱さを認めつつご自分が天に昇って行かれた後の弟子たちのショックを和らげるために、勇気を与え続けます。天に昇って行かれるイエスの姿は雲に覆われたと記されています。聖書の中で雲は神の存在を表すしるしです。雲の中すなわち神の中に入られたイエスの姿は弟子たちに大きな勇気を与えるものだったのです。「私たちのイエスは今や神とともにおられる」と。

第二朗読（使徒パウロのエフェソの教会への手紙 1 章 17-23 節）

主イエスはこの世においてすべてを私たち人間としてお過ごしになられました。それゆえにイエスは神のもとにおいて人間の絶大なる理解者、擁護者としておられるとパウロは主張します。天に昇られたイエスは父なる神の右の座に着かれたのです。「右の座」とは権力者から全権を委任されたことを意味しています。私たちの祈りはこのイエスの名においてなされる時に実現します。

福音朗読（マタイによる福音 28 章 16-20 節）

マタイ福音書の最後の言葉が読まれます。「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という言葉は、マタイ福音書の冒頭で読まれるイエス・キリストの系図を意識したものでしょうか、神のご計画によって始まった救いの歴史は今や現代に生きる私たちに託されているのです。イエスは「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛しなさい」と命じられました。この命令を行っていくことが救いの歴史を行い続けていくことなのです。どんな時代においてもどんな生活状況においてもこの命令は私たちから離れることはなく、免除されることもないのです。今日、今行われる必要があるのです。

「彼らは天を見つめていた」（使徒言行録 1.19）

ミサの豆知識

②使徒たちの時代から続く

使徒たちの時代から、ミサはキリスト信者にとって常に礼拝の中心的行為でした。ミサとは、イエスが弟子たちに「私の記念としてこれを行いなさい」（ルカ22．19）と命じられた最後の晩餐でご自分が制定なさった聖体祭儀に他なりません。

（『ミサ聖祭　聖書にもとづくことばと所作の意味　』フリープレス参照）

P.S.

菊地大司教様は世界カリタスの総会において「世界カリタス総裁」に選出されました。素晴らしい出来事ですが、責任は重いものがありますので私たちのお祈りでもって支えていきましょう。

カトリック足立教会

主任司祭　野口重光